

2009 SUPER GT 第8戦 オートポリス

◆◆◆苦境を乗り越え、予選11位から3位表彰台を獲得!! ◆◆◆

■2009年10月17～18日

■大分県・オートポリス

■No.24 HIS ADVAN KONDO GT-R 予選：11位 / 決勝：3位

◆10月17日 予選

【セットアップに苦悩し、11番手に甘んじる】

今回の舞台は大分県・オートポリス。セミ・ファイナルとなるこの一戦、何としてもいい結果を残したい。

また、オートポリスでのSUPER GTのレースは今回をもって一旦休止となるだけに、九州のファンに向けて、チームではいい戦いを披露したいところだ。

土曜の朝、公式練習は午前9時5分にスタート。

冷たい風に霧雨が混じるコンディションに、ウェット宣言が出されたが、セッション中はつねにスリックタイヤで周回し、クルマのセットアップに取り掛かった。

予選に向けて方向性をしっかり定めたいところだったが、

No.24 HIS ADVAN KONDO GT-R は思うようにタイムが伸びず、厳しい状況下に置かれてしまう。

オートポリスに先んじて、9月中旬には仙台ハイランドでタイヤテストを実施。そこでいい手ごたえを得て、オートポリスへの準備をしてきただけに、チームには重苦しい緊迫した空気が流れることになった。

迎えた午後からの予選。まず荒が乗り込み、予選通過基準タイムのクリアを済ませる。

その後は、セッティングの方向性を定めるために、オリベイヤ選手が再び走行。GT500の専有アタックの時間帯に向けて、時間の許す限り、あらゆる手を尽くした。

GT500の専有走行が始まると、オリベイヤ選手は真っ先にコースイン。

クリアラップを取り、懸命のアタックで1分43秒375のタイムをマーク。

引き続きアタックに向かい、タイムアップを狙うがベストタイムの更新は果たせず。

セッション終了間際になって、ライバル達が続々とタイムアップしたため、No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rは11番手に終わり、スーパーラップへの進出を逃した。

◇ドライバーコメント◇

朝の練習走行では、JP（・デ・オリベイラ）がメインになってセッティングを出す作業をしました。

残念ながら今回はクルマのセットが決まっておらず、少しでも予選でいいタイムを出すために、

JP（・デ・オリベイラ選手）に集中して乗ってもらってセッティングを進めてもらうことになりました。

結果、僕は最低限のクルマの確認と予選基準通過タイムをクリアしたくらいで、ほとんど乗っていません。今日は手ごたえがつかめないまま時間を過ごしてしまうことになりました。

今日は色んな要素がうまくかみ合わなかったですね。レースに向けて色々これから見直して、

明日は頑張らないと。とにかく残りを全力で戦うだけです。

◇監督コメント◇

チームみんなで悩んでいます。今日は「こんなはずじゃない」という状態のまま、予選を終えることになりました。とはいえ、ドライバーたちのインフォメーションをもとにデータを分析し、

何がクルマに影響を与えているのかがわかれば、明日のレースは問題ないと思います。

レースタイムはそんなに悪くはないので、明日はできるだけポイントを獲り、最終戦のもてぎで勝てるよう、そしてシリーズ上位でシーズンを終われるように、いい流れをもう一度作りたいと思います。

◆10月18日 決勝

【スタートは荒！ 意表を突く作戦が奏功、3位を獲得に成功】

決勝日の朝は曇天模様。前日よりもはるかに寒さを感じる中、朝のフリー奏功が始まった。

前日、予選を終えたチームでは、クルマのセッティングを大幅に見直して変更。その確認を行い、改めて方向性を定めていくことになった。

シリーズランキングの争いが佳境に入中、少しでも上位を目指したいチームで

は、

今日のレースで1台でも前でチェッカーを受けることが目標。

結果、大きくポジションアップするための意表を突く作戦を立てる。

その作戦とは、スタートドライバーを荒が担当し、オリベイヤ選手へと繋ぐこと。

これまでは、スタートを担当するオリベイヤ選手がライバルよりも長く周回し、

その間にポジションアップを狙うのがチームの十八番だった。

だが、クルマとタイヤが置かれた現状を考慮し、その中で最大限にパフォーマンスを発揮するには、

荒がスタートを切り、オリベイヤ選手に後半を任せるのが良いとのこと。

そして、この作戦がチームにうれしい結果をもたらすことになる。

午後2時35分、65周にわたる決勝レースがスタート。

久々のスタートドライバーを務めることになった荒だが、冷静かつ力強いスタートを切り、

ポジションをひとつあげて10位でオープニングラップを終えることに成功した。

以後、タイヤを持たせる走りに集中、周りのライバルと遜色ないタイムで周回を重ね、29周を消化。

ピットインし、待ちうけるオリベイヤ選手へとステアリングを委ねた。

ピットではいつもと手順が異なるドライバー交代も無事スムーズに完了。

また、スタッフもスムーズに給油、タイヤ交換など自分たちの作業を完璧にこなし、

オリベイヤ選手をコースへと送り出した。

レース後半を任せられたオリベイヤ選手は、まず無理のないペースでタイヤを温存。

のちにNSX勢の猛追に遭うが、巧みなドライビングで接近戦に挑み、ライバルをシャットアウト。

レース自体、小競り合いの末に接触などのアクシデントが多く発生する中、

No.24 HIS ADVAN KONDO GT-Rは「レースに強い」という本来のパフォーマンスを披露し、

3位でチェッカー！ここ暫く停滞気味だった流れを断ち切り、申し分のない結果を残すことに成功した。

◇ドライバーコメント◇

予選が終わってから気持ちを切り替え、今日の決勝できちんと速く走れるクルマ作りを目指しました。

チームの作戦で、今回は久々にスタートを担当しましたが、うまく抜くこともできたので楽しかったです。

そのあとは、JP（・デ・オリベイラ選手）にいい状態でつなげられるよう、またタイヤを持たせるよう、自分の走りに集中しました。

今回、予選が厳しい結果になったことから、今後に向けての準備も必要だと思います。

正直なところクルマに関しては、まだまだ課題もあります。

しかしここしばらく不運なレースが続いていた中で、今回は表彰台に上がることができて良かったです。

◇監督コメント◇

レースではズバリ作戦が当たりました。これには周りが相当ビックリしたと思います。

作戦にあたり、最後の最後までスタートドライバーの申告を待って、締め切り3分前に申告しました。

予選11番手から上位を狙うためには、こういう作戦をとるしかないと思いました。荒はいいスタートを切って、ポジションも上げてくれました。

また、終盤、JP（・デ・オリベイラ選手）はNSX勢とのバトルで上手にレースをしてくれました。

チームでは、ここしばらくアンラッキーが続き、今回の予選でも苦しみましたが、決勝でいい流れを味方につけることができました。

最終戦でもいいレースをして、ランキング争いでは3位を狙っていければと思います。